

活動状況報告書（11 月分）

学生留学コース 織田 真央

日頃より温かい応援をいただき、ありがとうございます。

11 月のドイツは街中が一気にクリスマス仕様になり、誰かが通りで音楽を奏でていたり、老夫婦が手をつないで散歩していたり、そんなゆったりした空気にも少しずつ慣れてきました。

さて、11 月は札幌の姉妹都市であるミュンヘンを訪れました。想像以上に都会で、人々がクリスマスマーケットの会場にぎゅっと集まり、活気に溢れていました。札幌市も「ミュンヘンクリスマス市」を開催していますが、実際に現地に訪れたことで、いつかここで札幌フェスタを開催したいという気持ちが強くなりました。マーケット内では精肉店（特にソーセージ）を扱う店舗が複数あり、屋台やソーセージ専門店も多く出店していました。ドイツのソーセージ文化は、観光客だけでなく、地元の人たちの生活にも深く根付いているのだと改めて実感しました。

また、パイロイトの街でも精肉店を訪れ、インタビューをさせていただきました。長年続く人気店ということもあり、絶えずお客様が来店しており、お話を伺えたのは閉店間際。突然のお願いにもかかわらず、スタッフの方々はとても親切にしてくださいました。そこで印象的だったのは、留学生を含め肌感覚で半数以上の人々が北海道をそもそも知らなかったこと。そして、北海道のお肉ブランドを知っている人は、（私が聞いた中だと）なんと 0 人でした。これは逆に言えば、こちらでの発信に大きな可能性があると言う事でもあります。今回の方も調査を通して、改めて挑戦の余地を強く感じています。

